

参考 1 :

走りやすさマップのカーナビ等への活用に関する研究に係るこれまでの経緯

年度	道路の走りやすさマップ整備等	走りやすさマップのカーナビ等への活用に関する研究 (共同研究)
平成17年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 走りやすさマップの九州各県お試し版、全国17モデル地区お試し版を作成・公表 	—
平成18年度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 道路の走りやすさマップを道路重点施策の一環として位置づけ 	—
7月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 道路の走りやすさマップ研究会設立 ■ 第1回 道路の走りやすさマップ研究会 開催 (4日) 	—
8月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第2回 道路の走りやすさマップ研究会 開催 (24日) 	—
9月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 道路の走りやすさマップの全国展開 	—
10月	—	<ul style="list-style-type: none"> ■ 走りやすさマップのカーナビ等への活用に関する研究の共同研究社の公募開始
12月	—	<ul style="list-style-type: none"> ■ 走りやすさマップのカーナビ等への活用に関する研究の開始 ■ 第1回 実務者定期連絡会 開催(26日)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第3回 道路の走りやすさマップ研究会 開催 (8日) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第2回 実務者定期連絡会 開催 (8日)
3月	—	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第3回 実務者定期連絡会 開催(22日)
平成19年度	—	—
4~5月	—	<ul style="list-style-type: none"> ■ 開発計画書に関する意見交換
6月	—	<ul style="list-style-type: none"> ■ プロGRESSレポート1作成
7月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第4回 道路の走りやすさマップ研究会 開催 (24日) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第4回 実務者定期連絡会 開催(24日)
10月	—	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界会議@北京の地図SSで取り組みを紹介 ■ プロGRESSレポート1作成 (英語版・中国版) を世界会議@北京で配布
12月	—	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第5回 実務者定期連絡会 開催 (4日)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第5回 道路の走りやすさマップ研究会 開催 (18日) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 第6回 実務者定期連絡会 開催(18日)

年度	道路の走りやすさマップ 整備等	走りやすさマップのカーナビ等への活用に関 する研究 (共同研究)
平成20年度	—	—
5月	—	■ プロGRESSレポート2作成
7月	—	■ 第7回実務者定期連絡会 (31日)
9月	—	■ 実走実験フェーズ1 (10日)
10月	—	■ 実走実験フェーズ2 (21~23日)
12月	—	■ 第8回実務者定期連絡会 (2日) ■ シミュレーション実験
3月	■ 第6回道路の走りやすさマップ 研究会 開催 (3日)	■ 第9回実務者定期連絡会 (3日) ■ PROGRESSレポート3作成 ■ 報告書作成

参考 2 : 実務者定期連絡会概要

平成 18 年 10 月 18 日から共同研究社の公募を開始し、12 月 13 日に共同研究社を決定。実務者定期連絡会を 9 回開催した。

なお、実務者定期連絡会の主な議題および当日配付資料は下記の通り。

実務者定期連絡会概要

回/日付	主な議題	当日配布資料
第 1 回 2006 年 12 月 26 日	(1)共同研究体制 (案) について (2)研究項目及び研究分担 (案) について (3)研究スケジュール (案) について (4)実務者定期連絡会の進め方 (案) について (5)各共同研究社からの提案 (6)その他	資料 1 共同研究体制 (案) について 資料 2 研究項目及び研究分担 (案) について 資料 3 研究スケジュール (案) について 資料 4 実務者定期連絡会の進め方 (案) について 資料 4 参考 実務者定期連絡会 (今年度) の検討範囲について 参考 1 共同研究標準協定書 参考 2 走りやすさデータの構成
第 2 回 2007 年 2 月 8 日	(1)データ項目 (案)、データ関連付け方法 (概略案) について (2)走りやすさマップのカーナビ等への活用に関する社会的効果の検討について (3)中間とりまとめに向けた今後の進め方について	資料 1 実務者定期連絡会名簿 資料 2 第一回実務者定期連絡会議事録 資料 3 - 1 提供するデータ項目に関するアンケート結果概要 資料 3 - 1 参考 走りやすさ評価ランクの判定方法 資料 3 - 2 データ項目(案)およびデータ関連付け方法 (概略案) 資料 4 走りやすさマップのカーナビ等への活用に関する社会的効果の検討 資料 5 中間とりまとめに向けた今後の進め方 資料 5 別紙 開発計画書 様式 (案) 資料 6 走りやすさマップに関する新聞報道 資料 6 別紙 萩市におけるカーナビ経路案内に関する問題

回/日付	主な議題	当日配布資料
<p>第3回 2007年 3月22日</p>	<p>(1)データ関連づけの詳細形式およびサンプルデータについて (2)走りやすさマップのカーナビ等への活用に関する社会的効果の検討について (3)中間とりまとめについて (4)今後の進め方について (5)その他</p>	<p>資料1 実務者定期連絡会名簿 資料2 第二回実務者定期連絡会議事録 資料3 データ関連づけの詳細形式について 資料4 走りやすさマップのカーナビ等への活用に関する社会的効果の検討について 資料5 中間とりまとめについて 資料5別紙1 中間とりまとめ報告書(案) 資料5別紙2 中間とりまとめパンフレット(案) 資料6 今後の進め方について 資料7 カーナビ等向けの道路の走りやすさのマップデータの作成について</p>
<p>第4回 2007年 7月24日</p>	<p>(1)道路の走りやすさマップに関する最近の動向 (2)道路の走りやすさマップデータの維持・更新について (3)道路の走りやすさマップデータの活用基準(案)について (4)共同研究の今後の予定</p>	<p>資料1 実務者定期連絡会名簿 資料2 第三回実務者定期連絡会議事要旨 資料3 道路の走りやすさマップに関する最近の動向 資料4 道路の走りやすさマップデータの維持・更新について 資料5 道路の走りやすさマップデータの活用基準(案) 資料6 共同研究の今後の予定</p>
<p>第5回 2007年 12月4日</p>	<p>(1)カーナビ用走りやすさマップデータの活用について(意見照会結果) (2)カーナビ、WEB上でのユーザーへの明示方法について(意見照会結果) (3)カーナビ用走りやすさマップデータの状況等について (4)今後の進め方に関するご意見 (5)共同研究の今後の予定</p>	<p>資料1 実務者定期連絡会名簿 資料2 第四回実務者定期連絡会議事要旨 資料3 カーナビ用走りやすさマップデータの活用について(意見照会結果) 資料4 カーナビ、WEB上でのユーザーへの明示方法について(意見照会結果) 資料5 カーナビ用走りやすさマップデータの状況等について 資料6 共同研究の今後の予定</p>

回/日付	主な議題	当日配布資料
<p style="text-align: center;">第6回 2008年 3月18日</p>	<p>(1)カーナビ、WEB 上でのユーザーへの明示について (2)カーナビ用走りやすさマップデータについて (3)共同研究の PR 活動について (4)中間とりまとめについて (5)共同研究の今後の予定</p>	<p>資料1 実務者定期連絡会名簿 資料2 第五回実務者定期連絡会議事要旨 資料3 カーナビ、WEB 上でのユーザーへの明示方法について 資料4 カーナビ用走りやすさマップデータについて 資料5 道路の走りやすさマップデータの維持更新要領の概要 資料6 共同研究の PR 活動について 資料7 中間とりまとめについて 資料8 共同研究の今後の予定 参考1 走りやすさマップのカーナビ等への活用に関する研究とりまとめ資料 参考2 走りやすさマップのカーナビ等への活用に関する研究（プログレレポート2）（案）</p>
<p style="text-align: center;">第7回 2008年 7月31日</p>	<p>(1)DRM 対応道路の走りやすさマップデータ（修正版）について (2)共同研究の PR 活動について (3)国総研と連携したユーザーニーズ把握について (4)同研究の今後の予定について</p>	<p>資料1 実務者定期連絡会名簿 資料2 第6回実務者定期連絡会議事録 資料3 DRM 対応道路の走りやすさマップデータ（修正版）について 資料4 共同研究 PR 活動について 資料5 ユーザーニーズの把握について 資料6 国総研と連携したユーザーニーズ把握の実施について 資料7 共同研究の今後の予定について 資料8 大規模実証実験関連について 資料9 カーナビ、WEB 上でのユーザーへの明示について（ロゴデータの配布）</p>

回/日付	主な議題	当日配布資料
<p style="text-align: center;">第8回 2008年 12月2日</p>	<p>(1) DRM 対応道路の走りやすさマップデータについて (2) 社会的効果の整理について (3) 共同研究報告書のとりまとめについて (4) 共同研究の今後の予定について</p>	<p>資料1 実務者定期連絡会名簿 資料2 第7回実務者定期連絡会議事録 資料3 道路の走りやすさマップデータ 区間 延長単位の変換率計算について 資料4 データの仕様類 資料5 データの提供体制 資料6 走りやすさマップデータの修正について 資料7 走りやすさマップデータ web 管理システムの公開について 資料8 ユーザーニーズ把握およびとりまとめについて 資料9 社会的効果の整理結果（実道実走実験の結果速報） 資料10 走りやすさルート分析実験（フェーズ3）の目的および実施方法 資料11 共同研究報告書（公開版）の作成について 資料12 共同研究の今後の予定 資料13 共同研究の成果発表会について 資料14 「道路の走りやすさナビ [九州お試し版]」によるニーズ把握状況報告 参考 ご提供する資料、ご提出いただく資料、および今後お願いする事項の整理</p>
<p style="text-align: center;">第9回 2009年 3月3日</p>	<p>(1) DRM 対応道路の走りやすさマップデータについて</p>	<p>資料1 第8回実務者定期連絡会議事録 資料2 修正データの提供について 資料3 データの仕様類について 資料4 データの作成・更新・提供時期について 資料5 道路の走りやすさマップの今後の予定</p>

参考 3 :

実務者定期連絡会委員名簿

	氏名	所属機関	所属	備考	
座長	金澤 文彦	国土交通省 国土技術政策総合研究所	高度情報化研究センター情報基盤研究室室長	第1～8回	
	遠藤 和重	国土交通省 国土技術政策総合研究所	高度情報化研究センター情報基盤研究室室長	第9回	
委員	前田 明	アルパイン(株)	ナビコアソフト開発部部長		
	早川 勉	(株)ケンウッド	カーマルチメディア事業部次期システム開発統括	第1～4回	同グループ
	加藤 直宏	J&Kテクノロジーズ(株)	第一事業本部 マルチメディア技術部部長	第5回～	
	大野 雅幸	(株)ゼンリン	ITS 事業本部 ITS 企画部部長	第1～3回	
	宮園 賢司	(株)ゼンリン	ITS 事業本部部長	第4～6回	
	田中 武士	(株)ゼンリン	経営戦略室 ITS事業戦略担当 アシスタントマネージャー	第7回～	
	縄岡 孝善	住友電工システムソリューション(株)	モバイルシステム事業部地図情報システム部 DB2 課長		
	渡邊 淳	(株)トヨタマップマスター	開発部部長		同グループ
	後藤 雅幸	(株)デンソー	ITS 開発部 室長	第1～8回	
	近江 真宜	(株)デンソー	ITS 開発部第2開発室	第9回	
	長田 幸広	アイシン・エイ・ダブリュ(株)	ナビ事業本部 開発部 副部長		
	島村 秀樹	(株)パスコ	研究開発センター長		同グループ
	飯塚 比呂志	インクリメントP(株)	地図整備本部長 兼 東北開発センター所長		
	柴田 明人	パナソニック(株)	オートモーティブシステムズ社市販BU 商品設計グループチームリーダー		
	隅蔵 雄一郎	国土交通省 道路局	企画課道路経済調査室係長	第1～7回	
	川村 顕大	国土交通省 道路局	企画課道路経済調査室調査第二係長	第8回～	
	吉本 紀一	国土交通省 道路局	道路交通管理課高度道路システム推進室補佐	第1～6回	
	澤 純平	国土交通省 道路局	道路交通管理課高度道路システム推進室補佐	第7回～	
	清重 典宏	国土交通省 道路局	道路交通管理課高度道路システム推進室係長	第1～3回	
	影井 敬義	国土交通省 道路局	道路交通管理課高度道路システム推進室係長	第4回～	
井坪 慎二	国土交通省 国土技術政策総合研究所	道路研究部道路研究室研究官	第1～3回		
橋本 浩良	国土交通省 国土技術政策総合研究所	道路研究部道路研究室研究官	第4～6回		
松本 俊輔	国土交通省 国土技術政策総合研究所	道路研究部道路研究室研究官	第7回～		

	氏名	所属機関	所属	備考
委員	山崎 勲	国土交通省 国土技術政策総合研究所	高度情報化研究センター高度道路交通システム研究室研究官	第1～6回
	重田 良二	国土交通省 国土技術政策総合研究所	高度情報化研究センター高度道路交通システム研究室研究官	第7回～
	草野 裕一	国土交通省 九州地方整備局	道路部道路計画第二課技官	第1～3回
	立石 洋和	国土交通省 九州地方整備局	道路部道路計画第二課技官	第4～7回
	竹下 和宏	国土交通省 九州地方整備局	道路部道路計画第二課	第8回～
事務局	藤本 幸司	国土交通省 国土技術政策総合研究所	高度情報化研究センター情報基盤研究室主任研究官	第1～6回
	有村 真二	国土交通省 国土技術政策総合研究所	高度情報化研究センター情報基盤研究室主任研究官	第7回～
	関本 義秀	国土交通省 国土技術政策総合研究所	高度情報化研究センター情報基盤研究室研究官	第1～3回
	布施 孝志	国土交通省 国土技術政策総合研究所	高度情報化研究センター情報基盤研究室研究官	第4回～
	湯浅 直美	国土交通省 国土技術政策総合研究所	高度情報化研究センター情報基盤研究室研究員	第4回～
	松下 博俊	国土交通省 国土技術政策総合研究所	高度情報化研究センター情報基盤研究室交流研究員	第1～3回
	松林 豊	国土交通省 国土技術政策総合研究所	高度情報化研究センター情報基盤研究室交流研究員	第4回～

参考 4 : 道路の走りやすさマップデータの仕様類 (案)

090331 版

道路の走りやすさマップデータ 仕様類 (DRM 対応)

第 1.0 版

2009 年 3 月 31 日

国土技術政策総合研究所

目次

1. データ仕様	1-1
1.1 データ概要	1-3
1.1.1 DRM 対応道路の走りやすさマップデータ	1-3
1.1.2 緯度経度管理道路の走りやすさマップデータ	1-3
1.2 フィールド詳細	1-4
1.3 フォーマット仕様	1-5
1.4 コード表	1-7
2. 取得基準	2-1
2.1 出典情報	2-3
2.2 データ取得フロー	2-3
2.3 データの取得範囲（対象路線）	2-4
2.4 ランク算出方法	2-4
3. 整備基準	3-1
3.1 整備の基本的考え方	3-3
4. 検査仕様	4-1
4.1 DRM 対応データの変換チェック	4-3
4.2 ウィルスチェック	4-3
5. 運用規定書	5-1
5.1 提供データ	5-3
5.1.1 リリース時期	5-3
5.1.2 提供データの範囲	5-3
5.2 データの取り扱い	5-3
5.2.1 著作権について	5-3
5.2.2 総合評価ランクの使用	5-3
5.2.3 道路の走りやすさマップデータのアレンジランクについて	5-3
5.2.4 ログの表示等について	5-4
5.2.5 その他	5-4

第一章 データ仕様

変更履歴

版	修正日	修正内容
1.0	2009/3/31	・データ提供に伴い、データ仕様を見直し。

1.1 データ概要

1.1.1 DRM 対応道路の走りやすさマップデータ

DRM 対応道路の走りやすさマップデータは、走りやすさデータ管理 Web システムにおいて緯度経度で管理されている道路の走りやすさマップデータを、DRM のリンク単位に分割し、それぞれに DRM リンク番号を付加したデータである。

1.1.2 緯度経度管理道路の走りやすさマップデータ

DRM 対応道路の走りやすさマップデータ作成作業において、走りやすさデータ管理 Web システムで緯度経度管理されている道路の走りやすさマップデータから DRM 対応道路の走りやすさマップデータへの変換処理が実施できなかったものについては、緯度経度管理道路の走りやすさマップデータの状態でデータを提供する。

なお、DRM 対応道路の走りやすさマップデータと緯度経度管理道路の走りやすさマップデータとの関係は以下のとおりである。

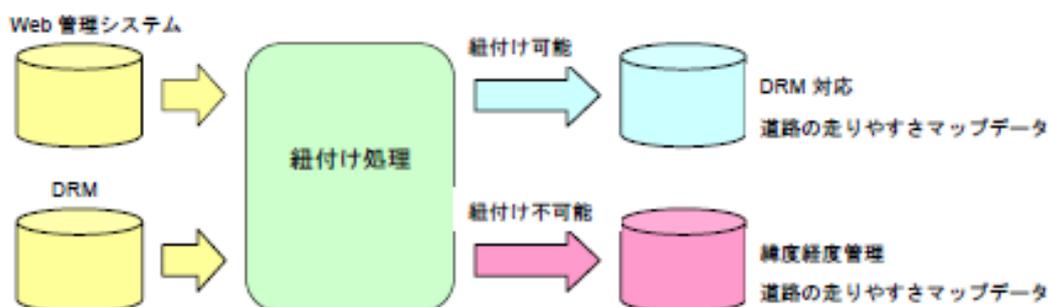


図 1-1 DRM 対応道路の走りやすさマップデータと緯度経度管理道路の走りやすさマップデータとの関係

本仕様書は、上記のうち DRM 対応道路の走りやすさマップデータについて解説したものである。

1.2 フィールド詳細

データ種別	データ項目	桁数	コード	備考
(a)	(b)	(c)	(d)	(e)

(a)データ種別

データの種別を表す。

(b)データ項目

各データを構成する要素を表す。

(c)桁数

データ項目の桁数を表す。

固定長の場合は（ ）無しの数値で、可変長の場合は最大桁数を（ ）付の数値で表現する。

表現形式が実数の場合はピリオドを続けて小数点以下の桁数を表現する。

例：「(3). 1」

(d)コード

データ項目がコードで表現されていることを表す。記載された番号は、後述するコード表の該当番号を表す。

(e)備考

データ項目の数値の単位や注意点など、特記すべき事項を表す。

1.3 フォーマット仕様

【ファイル形式】CSV（カンマ切り）

【ファイル名】DRM 対応道路の走りやすさマップデータ(都道府県コード_都道府県名).csv

【データ項目と内容】

表 1-1 DRM 対応道路の走りやすさマップデータ項目一覧

データ種別	データ項目	桁数	コード	備考	
DRM リンクデータ	二次メッシュコード	6			
	リンク番号	ノード1番号	5		ノード番号の小さいものを1、大きいものを2 例：リンク番号「75」は、「00075」と実際には「0」で埋められている。
		ノード2番号	5		
	DRM 道路種別コード	1	③	DRM で規定されている道路種別	
	上下線区分コード	1	④	0=上下共通、1=下り、2=上り	
リンク長（計算値）	(5)		単位：m		
評価区間数	評価区間数	(2)		DRM リンク内に含まれる評価区間の数：n	
	評価区間番号	(2)		DRM リンク内における当該評価区間の番号：1～n	
DRM リンク内における評価区間位置	ノード1からノード1側の評価区間端点までの距離	(5)		単位：m	
	ノード1からノード2側の評価区間端点までの距離	(5)		単位：m	
評価データ	都道府県支庁指定市コード	(5)	①		
	走りやすさ道路種別コード	1	②	走りやすさで規定されている道路種別	
	路線番号	(5)			
	路線枝番号	(3)			
	評価区間 No	(3)			
	評価区間 No 枝番号	(3)			
	区間延長（計算値）	(5)		単位：m	
	評価区分	1	⑤	評価区分コード 市街地部の道路か郊外・山地部の道路かを判別【P2-7 参照】	
	設計速度割合	60km/h 以上	(5).1		設計速度が各値（20km/h から 60km/h まで）以上とされている道路が、評価区間に占める延長の累積割合。【P2-8 参照】 単位：%、小数点以下1桁まで
		50km/h 以上	(5).1		
		40km/h 以上	(5).1		
		30km/h 以上	(5).1		
		20km/h 以上	(5).1		
	車線数	1	⑥		
	離合困難箇所の有無	1	⑦		
	歩道設置状況（上り）	1	⑧	上下線区分=1の時は9：評価対象外	
	歩道設置状況（下り）	1	⑧	上下線区分=2の時は9：評価対象外	
	路肩設置状況（上り）	1	⑨	上下線区分=1の時は9：評価対象外	
	路肩設置状況（下り）	1	⑨	上下線区分=2の時は9：評価対象外	
	縦断勾配評価	1	⑩		
MおよびSランク評価	1	⑪			
評価結果	1		ランク評価結果（M,S,A,B,C,D） 未供用：R、通行止め：T、通行不能：Y 空欄：“-”（半角ハイフン）		

データ種別	データ項目	桁数	コード	備考
更新履歴	最終更新年月日	8		YYYYMMDD ※更新有無フラグ等では、いつに対しての更新かわからなくなる。よって、最終更新日付を残すことで、活用者側が判断する。

※：最終カラムには評価区間 ID を付す（評価結果とは無関係）

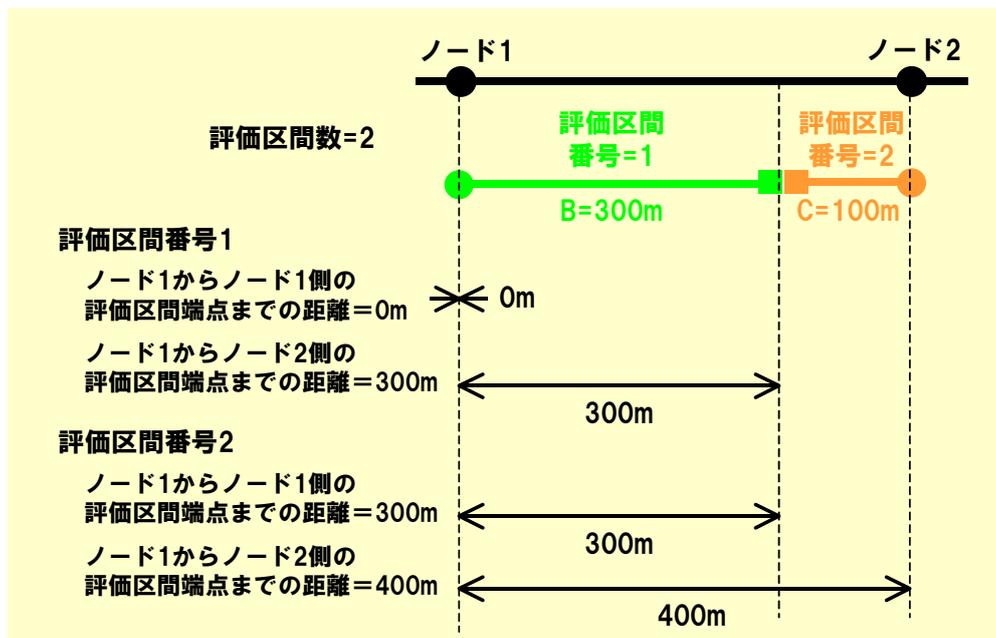


図 1-2 DRM リンク内における評価区間位置表現方法

1.4 コード表

①都道府県支庁指定市コード：

支庁指定市については最大 5 桁の標準指定市コード、都道府県については都道府県コード最大 2 桁に下 3 桁はゼロにしたものである。(一部、支庁指定市以外で、下 3 桁が市町村コードとなっている場合がある。)

②走りやすさ道路種別コード：

高速自動車国道	1
都市高速道路	2
一般国道	3
主要地方道（都道府県道）	4
主要地方道（指定市道）	5
一般都道府県道	6
指定市の一般市道	7
農道	8
林道	9
その他	0

③DRM 道路種別コード：

高速自動車国道	1
都市高速道路	2
一般国道	3
主要地方道（都道府県道）	4
主要地方道（指定市道）	5
一般都道府県道	6
指定市の一般市道	7
その他の道路	9
未調査	0

走りやすさ路線種別コードの
8,9,0 は、9 に割り当て

その他は、同列で変換

④上下線区分コード：

上下共通	0
下り	1
上り	2

⑤評価区分：

山地部・郊外部	1
DID 地区	2
両側連坦	3
片側連坦（上り）	4
片側連坦（下り）	5

⑥車線数：

1 車線	1
2～3 車線	2
4 車線以上	4

⑦離合困難箇所の有無：

離合困難箇所がある場合	1
それ以外	0

⑧歩道設置状況：

歩道が無い場合	0
歩道幅員が2m未満の場合	1
歩道幅員が2m以上の場合	2
歩道はあるが詳細な幅員が不明な場合（郊外部・山地部のみ）	3
評価対象外	9

⑨路肩設置状況：

路肩幅員が50cm未満の場合	1
50cm以上75cm未満の場合	2
75cm未満の場合（詳細幅員不明、郊外部・山地部のみ）	3
75cm以上の場合	4
評価対象外	9

⑩縦断勾配評価：

A→Bのランクダウンの場合	1
B→Cのランクダウンの場合	2
それ以外	0

⑪MおよびSランク評価：

Mランクに該当する場合	1
Sランクに該当する場合	2
それ以外	0

第二章 取得基準

変更履歴

版	修正日	修正内容
1.0	2009/3/31	・データ提供に伴い、取得基準を見直し。

2.1 出典情報

平成 17 年度以前に供用されている道路については、基本的に走行調査によって DRM 対応道路の走りやすさマップデータの作成に用いるデータを収集した。

なお、平成 18 年度以降に供用された道路については、図面等よりデータを収集している。

2.2 データ取得フロー

DRM 対応道路の走りやすさマップデータは、下図に示す手順で作成した。

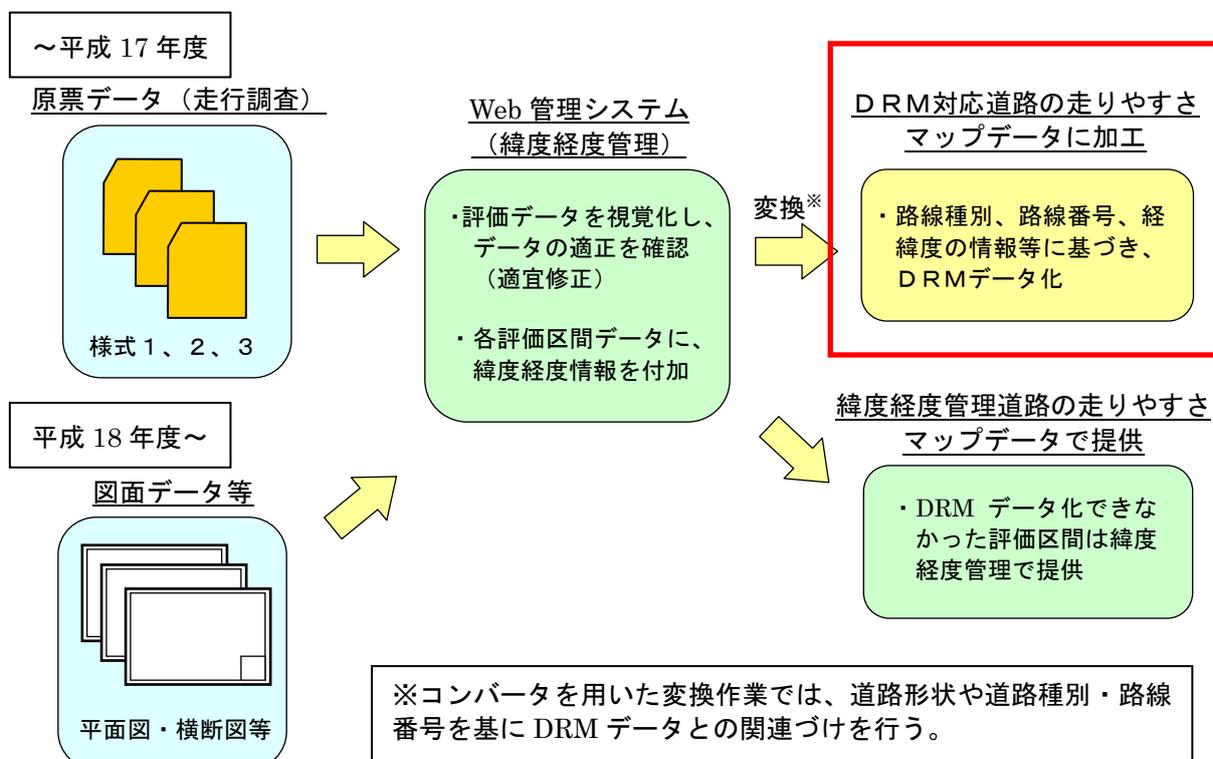


図 2-1 DRM対応道路の走りやすさマップデータ作成イメージ

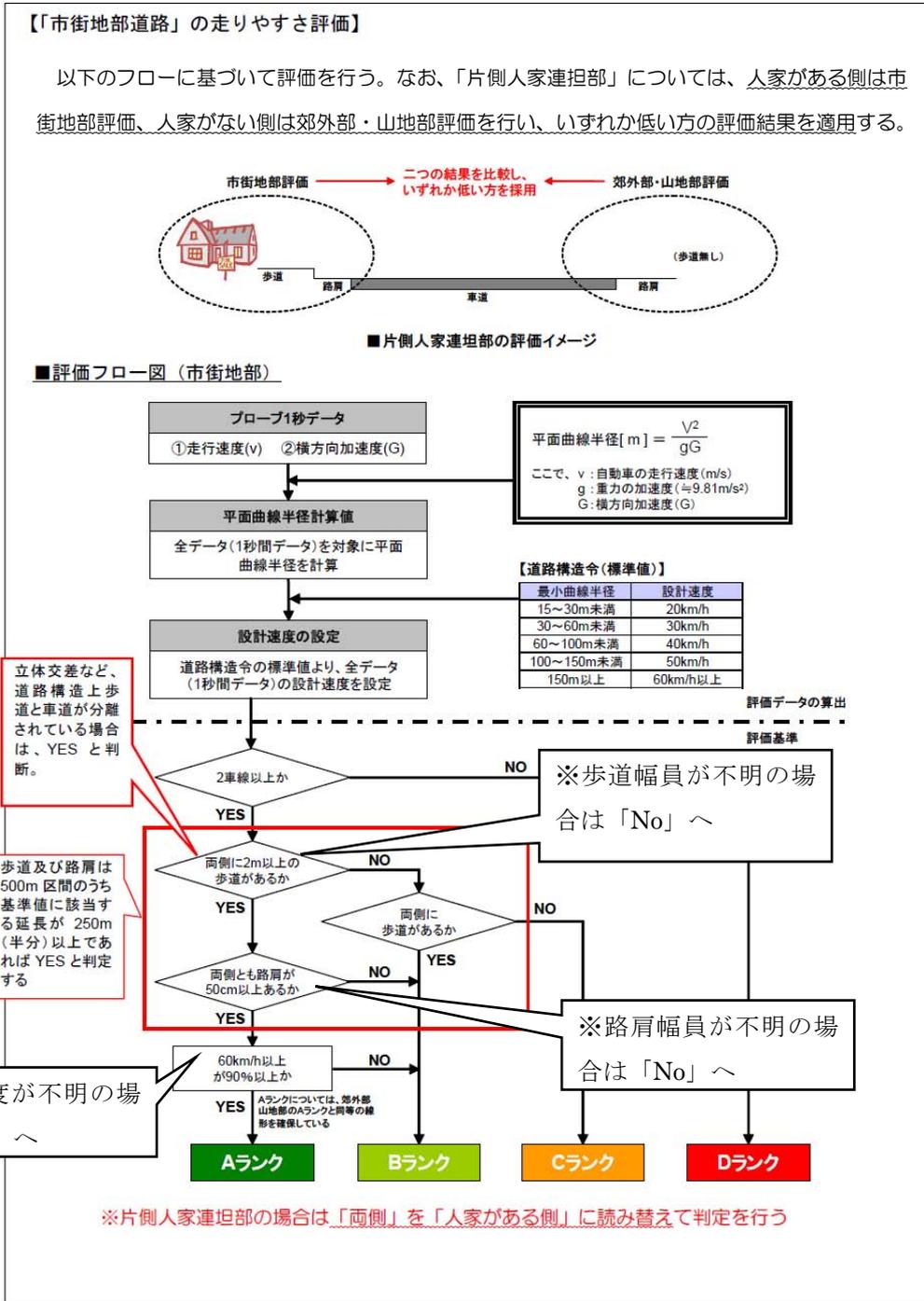
2.3 データの取得範囲（対象路線）

高速道路や国道・都道府県道などに加え、観光客が利用すると便利と思われる大規模林道や広域農道、主要な市町村道についても情報を提供する。

2.4 ランク算出方法

道路の走りやすさマップデータの評価ランクの算出方法は以下のとおり。

【市街地部道路の走りやすさ評価】



※：平成 20 年度にデータ更新された路線については、図面からデータ作成を行ったため、不明のデータ項目については別途吹き出しに記載した処理を行う。

【郊外部・山地部道路の走りやすさ評価】

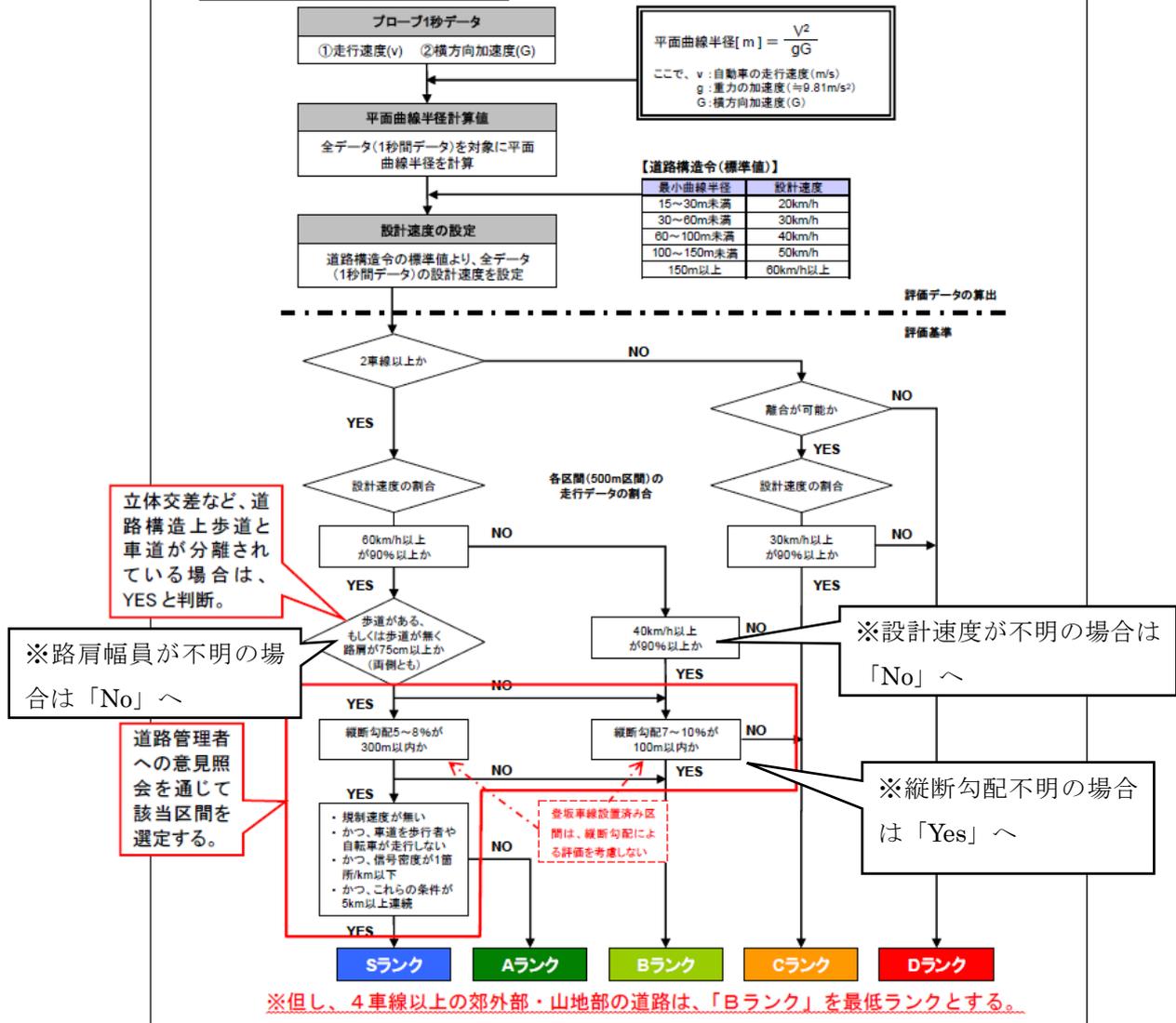
【自動車専用道路の走りやすさ評価】

自動車専用道路（第一種、第二種）の区間は、全てMランクとする。

【「郊外部・山地部道路」の走りやすさ評価】

プローブカーから得られた走行速度と横方向加速度の1秒間データ(手順①で整理した基礎データ)を用いて、平面曲線半径を計算し、全データについて道路構造令の標準値を用いて設計速度を設定し、各区間(500m程度の区間)の設計速度の割合に応じて、その区間の評価ランクを決定する。具体的な手法については、以下のフローの通り行う。

■評価フロー図(郊外部・山地部)



※：平成 20 年度にデータ更新された路線については、図面からデータ作成を行ったため、不明のデータ項目については別途吹き出しに記載した処理を行う。

【離合困難箇所および車線数の考え方】

離合困難箇所と車線数・評価ランクについて

離合(困難)とは…

- ✓ 離合とは、1車線道路において、すれ違うことを示す。
- ✓ このことから、離合困難箇所とは、1車線道路において幅員狭小及び線形不良などを理由に、車と車が容易にすれ違うことができない箇所を示す。



離合困難箇所および車線数の考え方

- ① 車線数の設定:
500mの評価区間のうちもっとも延長割合の高い車線数を採用
- ② 離合困難区間の設定:
500mの評価区間に少しでもあれば離合困難区間として設定

「車線数2かつ離合困難箇所あり」となるケース



車線数: 2 (2車線区間延長 > 1車線区間延長)
離合: 0 (離合困難箇所なし) or 1 (離合困難箇所あり)

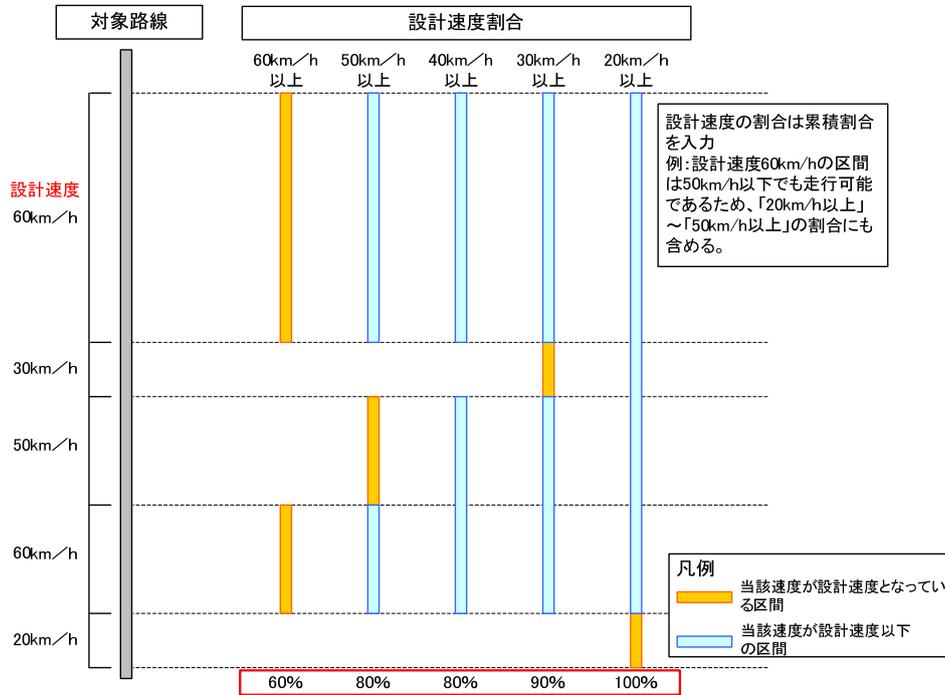
- ① 車線数の設定:
2車線区間割合が高い → 「車線数: 2」
- ② 離合困難区間の設定:
1車線区間の離合困難箇所の有無
→ 「離合: 0 or 1」

この場合
「車線数: 2」、「離合: 1」が発生する

※離合困難となる一車線道路は幅員が 3.5m 以下の道路を指す。

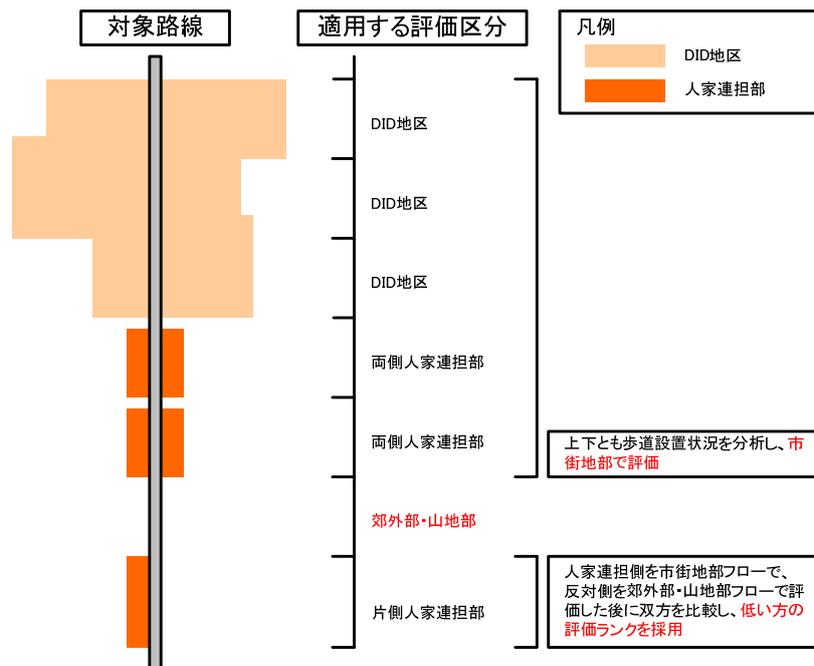
【設計速度割合の考え方】

設計速度が各値（20km/h から 60km/h まで）以上とされている道路が、評価区間に占める延長の累積割合を示したもの。



【評価区分の定義の考え方】

対象路線、D I D地区、人家連担部を整理した後、500m の評価区間ごとに適用する評価区分を以下のとおり決定する。500m の評価区間のうち、延長割合の最も高い区分を適用する。



第三章 整備基準

変更履歴

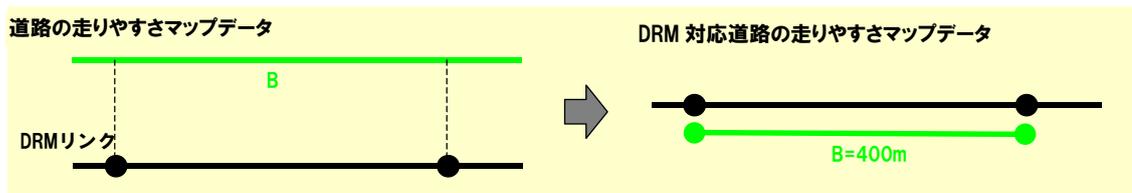
版	修正日	修正内容
1.0	2009/3/31	・データ提供に伴い、整備基準を見直し。

3.1 整備の基本的考え方

(1) DRM データ作成について

DRM 対応道路の走りやすさマップデータは、走りやすさ評価区間データを DRM のリンク単位に分割し、それぞれに DRM リンク番号を付加したデータである。データ加工イメージについて以下に示す。

① DRM リンク内に含まれる評価区間が 1 つの場合



② DRM リンク内に含まれる評価区間が複数の場合

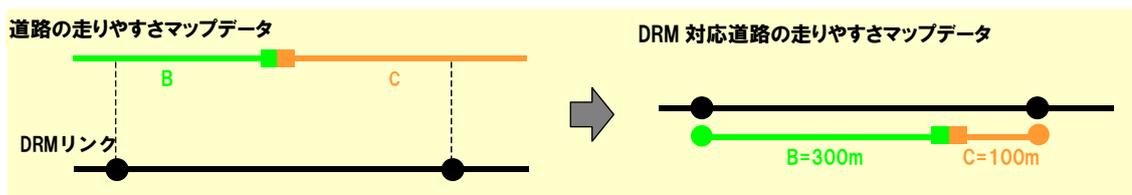


図 3-1 道路の走りやすさマップデータの DRM 対応化イメージ

(2) DRM データへの変換方法

DRM 対応道路の走りやすさマップデータは、走りやすさデータ管理 web システムの緯度経度管理データを変換して作成する。データ変換方法のイメージについて以下に示す。

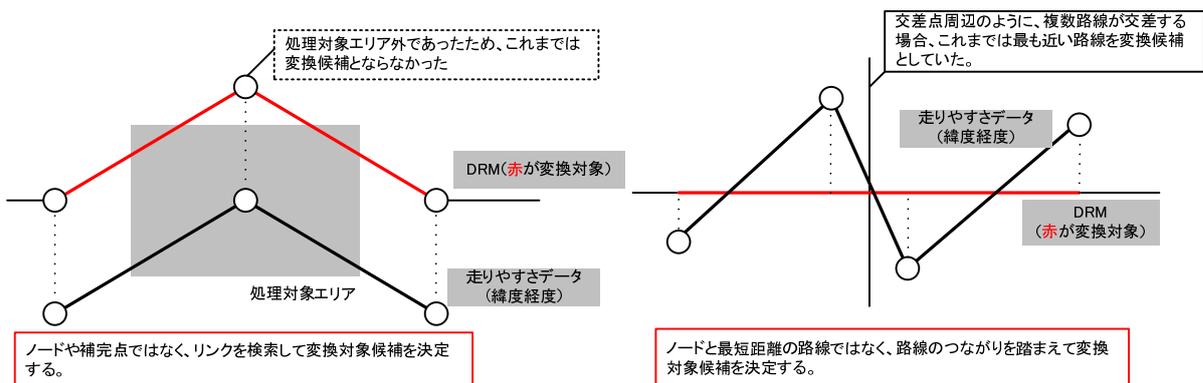


図 3-2 DRM データへの変換方法イメージ

(左：紐付け対象の拡張、右：複数候補路線からのマッチング)

(2) 2 条線の取り扱い

上下線分離道路（2 条線）については、DRM 対応データ作成において、緯度経度管理データにおいては片側車線のみ紐付けられていた走りやすさ評価を、もう片側にも付与している。

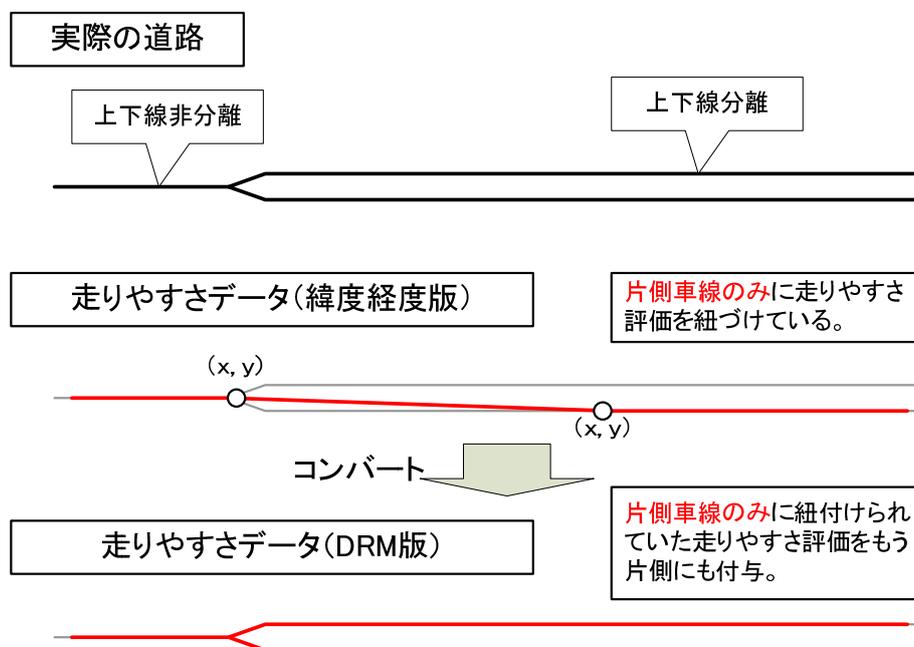


図 3-3 2 条線の取り扱い

第四章 検査仕様

変更履歴

版	修正日	修正内容
1.0	2009/3/31	・データ提供に伴い、検査実施内容を修正

4.1 DRM 対応データの変換チェック

DRM 対応データは、緯度経度管理データからの変換時に、以下のチェックを行う。

(1) ツールによる確認

コンバータによる変換作業を行うために作成した描画ツール（内部作業用）を用いた目視チェックを行う。

(2) 出力データの分析

コンバータにより出力された DRM 対応データについて、データの連続性やデータ数の観点から分析を行う。

4.2 ウィルスチェック

提供する道路の走りやすさマップデータは、ウィルスチェックを実施する。

第五章 運用規定書

変更履歴

版	修正日	修正内容
1.0	2009/3/31	・データ提供に伴い、運用規定の内容を修正

5.1 提供データ

5.1.1 リリース時期

更新された道路の走りやすさマップデータは、毎年4月頃に提供する。

5.1.2 提供データの範囲

毎年提供する道路の走りやすさマップデータの範囲は以下のとおり。

- ①提供するデータは、全国分のデータとする。
- ②提供するデータには、提供年度中および翌年度中に供用予定の道路が含まれる。
(例)N年4月に提供されるデータは、N+2年3月末までに供用される道路の更新データを含む。

5.2 データの取り扱い

5.2.1 著作権について

道路の走りやすさマップデータの著作権は、国土交通省国土技術政策総合研究所に帰属する。

5.2.2 総合評価ランクの使用

道路の走りやすさマップデータを使用する際は、走りやすさを表現するため、総合評価ランクを用いることを基本とする。

5.2.3 道路の走りやすさマップデータのアレンジランクについて

提供された道路の走りやすさマップデータについては、一部ランクの統合(6ランク→3ランクなど)、評価区間長の変更(500mピッチ→1kmピッチなど)、メーカー独自のデータを活用してランク区分の詳細化等、総合評価ランクをアレンジする場合は、国総研と協議すること。

5.2.4 ロゴの表示等について

道路の走りやすさマップデータを使用した際は、国土交通省で作成している道路の走りやすさマップデータを使用している旨の明示および画面上への図 5-1 に示すロゴの表示をすること。



図 5-1 道路の走りやすさマップロゴ

5.2.5 その他

その他、利用にあたっては国総研と協議すること。

090331 版

道路の走りやすさマップデータ
仕様類（緯度経度）

第 1.0 版

2009 年 3 月 31 日

国土技術政策総合研究所

目次

1. データ仕様	1-1
1.1 データ概要	1-3
1.1.1 DRM 対応道路の走りやすさマップデータ	1-3
1.1.2 緯度経度管理道路の走りやすさマップデータ	1-3
1.2 フィールド詳細	1-4
1.3 フォーマット仕様	1-5
1.4 コード表	1-7
2. 取得基準	2-1
2.1 出典情報	2-3
2.2 データ取得フロー	2-3
2.3 データの取得範囲（対象路線）	2-4
2.4 ランク算出方法	2-4
3. 整備基準	3-1
3.1 整備の基本的考え方	3-3
4. 検査仕様	4-1
4.1 データ登録の論理チェック	4-3
4.2 ウィルスチェック	4-4
5. 運用規定書	5-1
5.1 提供データ	5-3
5.1.1 リリース時期	5-3
5.1.2 提供データの範囲	5-3
5.2 データの取り扱い	5-3
5.2.1 著作権について	5-3
5.2.2 総合評価ランクの使用	5-3
5.2.3 道路の走りやすさマップデータのアレンジランクについて	5-3
5.2.4 ログの表示等について	5-4
5.2.5 その他	5-4

第一章 データ仕様

変更履歴

版	修正日	修正内容
1.0	2009/3/31	・データ提供に伴い、データ仕様を見直し。

1.1 データ概要

1.1.1 DRM 対応道路の走りやすさマップデータ

DRM 対応道路の走りやすさマップデータは、走りやすさデータ管理 Web システムにおいて緯度経度で管理されている道路の走りやすさマップデータを、DRM のリンク単位に分割し、それぞれに DRM リンク番号を付加したデータである。

1.1.2 緯度経度管理道路の走りやすさマップデータ

DRM 対応道路の走りやすさマップデータ作成作業において、走りやすさデータ管理 Web システムで緯度経度管理されている道路の走りやすさマップデータから DRM 対応道路の走りやすさマップデータへの変換処理が実施できなかったものについては、緯度経度管理道路の走りやすさマップデータの状態でデータを提供する。

なお、DRM 対応道路の走りやすさマップデータと緯度経度管理道路の走りやすさマップデータとの関係は以下のとおりである。

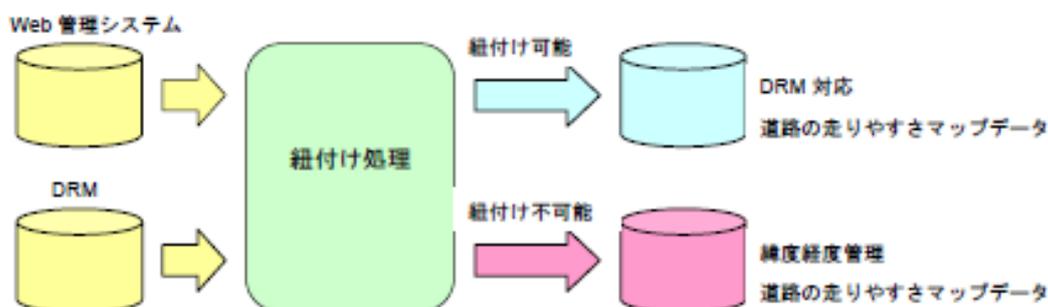


図 1-1 DRM 対応道路の走りやすさマップデータと緯度経度管理道路の走りやすさマップデータとの関係

本仕様書は、上記のうち緯度経度管理道路の走りやすさマップデータについて解説したものである。

1.2 フィールド詳細

データ項目	桁数	コード	備考
(a)	(b)	(c)	(d)

(a)データ項目

各データを構成する要素を表す。

(b)桁数

データ項目の桁数を表す。

固定長の場合は（ ）無しの数値で、可変長の場合は最大桁数を（ ）付の数値で表現する。

表現形式が実数の場合はピリオドを続けて小数点以下の桁数を表現する。

例：「(3). 1」

(c)コード

データ項目がコードで表現されていることを表す。記載された番号は、後述するコード表の該当番号を表す。

(d)備考

データ項目の数値の単位や注意点など、特記すべき事項を表す。

1.3 フォーマット仕様

【ファイル形式】 CSV（カンマ切り）

【ファイル名】 緯度経度管理道路の走りやすさマップデータ（都道府県コード_都道府県名）.csv

【データ項目と内容】

表 1-1 緯度経度管理走りやすさ評価データ項目一覧

データ項目		桁数	コード	備考
ID		(5)		評価区間を一意に識別するためのシステム ID
更新日時		※1		
生存開始日時		※1		当該レコード生存開始日時
生存終了日時		※1		当該レコード生存終了日時
上下線区分コード		1	④	0=上下共通、1=下り、2=上り
都道府県支庁指定市コード		5	①	
走りやすさ道路種別コード		1	②	走りやすさで規定されている道路種別
路線番号		(5)		
路線枝番号		(3)		
評価区間 No		(3)		
評価区間 No 枝番号		(3)		走りやすさ評価区間の分割の際に、例えば評価区間 No. 5 の区間に対して 5-1, 5-2 の様に枝番号を付与する。その後半の番号を意味する。
評価区間の延長				単位 : km
評価区間端の路線起点からの距離（上流側）				単位 : km
評価区間端の路線起点からの距離（下流側）				単位 : km
評価区分		1	⑤	評価区分コード 市街地部の道路か郊外・山地部の道路かを判別 【P2-7 参照】
設計速度割合	60km/h 以上	(5).1		設計速度が各値（20km/h から 60km/h まで）以上とされている道路が、評価区間に占める延長の累積割合。 【P2-8 参照】 単位 : %、小数点以下 1 桁まで
	50km/h 以上	(5).1		
	40km/h 以上	(5).1		
	30km/h 以上	(5).1		
	20km/h 以上	(5).1		
車線数		1	⑥	車線数コード
離合困難箇所の有無		1	⑦	離合困難箇所の有無コード ※離合困難箇所とは、1 車線道路において幅員狭小および線形不良などを理由に、車と車がすれ違うことができない箇所【P2-7 参照】
歩道設置状況（上り）		1	⑧	歩道設置状況コード
歩道設置状況（下り）		1	⑧	歩道設置状況コード
路肩設置状況（上り）		1	⑨	路肩状況コード
路肩設置状況（下り）		1	⑨	路肩状況コード
縦断勾配評価		1	⑩	縦断勾配評価コード
M および S ランク評価		1	⑪	M および S ランク評価コード
評価結果		1		ランク評価結果（M,S,A,B,C,D） 未供用：R、通行止め：T、通行不能：Y 空欄：“-”（半角ハイフン）

データ項目	桁数	コード	備考
DRM データ道路種別 (DRM1700)	1	③	DRM 道路種別コード
DRM データ路線番号 (DRM1700)	(5)		主路線の路線番号。但し、始点→終点方向に見て最初に出現した値。
始点側評価区間ノード	(5)		始点側の評価区間ノードのシステム ID
終点側評価区間ノード	(5)		終点側の評価区間ノードのシステム ID
始点経度座標			世界測地系、十進経緯度、小数点以下 6 桁
始点緯度座標			世界測地系、十進経緯度、小数点以下 6 桁
終点経度座標			世界測地系、十進経緯度、小数点以下 6 桁
終点緯度座標			世界測地系、十進経緯度、小数点以下 6 桁

※ 1 : 日時は『年/月/日 時:分:秒』

※ 2 : 桁数が空欄の項目は、実数

1.4 コード表

①都道府県支庁指定市コード：

支庁指定市については最大 5 桁の標準指定市コード、都道府県については都道府県コード最大 2 桁に下 3 桁はゼロにしたものである。(一部、支庁指定市以外で、下 3 桁が市町村コードとなっている場合がある。)

②走りやすさ道路種別コード：

高速自動車国道	1
都市高速道路	2
一般国道	3
主要地方道（都道府県道）	4
主要地方道（指定市道）	5
一般都道府県道	6
指定市の一般市道	7
農道	8
林道	9
その他	0

③DRM 道路種別コード：

高速自動車国道	1
都市高速道路	2
一般国道	3
主要地方道（都道府県道）	4
主要地方道（指定市道）	5
一般都道府県道	6
指定市の一般市道	7
その他の道路	9
未調査	0

走りやすさ路線種別コードの
8,9,0 は、9 に割り当て

その他は、同列で変換

④上下線区分コード：

上下共通	0
下り	1
上り	2

⑤評価区分：

山地部・郊外部	1
DID 地区	2
両側連坦	3
片側連坦（上り）	4
片側連坦（下り）	5

⑥車線数：

1 車線	1
2～3 車線	2
4 車線以上	4

⑦離合困難箇所の有無：

離合困難箇所がある場合	1
それ以外	0

⑧歩道設置状況：

歩道が無い場合	0
歩道幅員が2m未満の場合	1
歩道幅員が2m以上の場合	2
歩道はあるが詳細な幅員が不明な場合（郊外部・山地部のみ）	3
評価対象外	9

⑨路肩設置状況：

路肩幅員が50cm未満の場合	1
50cm以上75cm未満の場合	2
75cm未満の場合（詳細幅員不明、郊外部・山地部のみ）	3
75cm以上の場合	4
評価対象外	9

⑩縦断勾配評価：

A→Bのランクダウンの場合	1
B→Cのランクダウンの場合	2
それ以外	0

⑪MおよびSランク評価：

Mランクに該当する場合	1
Sランクに該当する場合	2
それ以外	0

第二章 取得基準

変更履歴

版	修正日	修正内容
1.0	2009/3/31	・データ提供に伴い、取得基準を見直し。

2.1 出典情報

平成 17 年度以前に供用されている道路については、基本的に走行調査によって緯度経度管理道路の走りやすさマップデータの作成に用いるデータを収集した。

なお、平成 18 年度以降に供用された道路については、図面等よりデータを収集している。

2.2 データ取得フロー

緯度経度管理道路の走りやすさマップデータは、下図に示す手順で作成した。

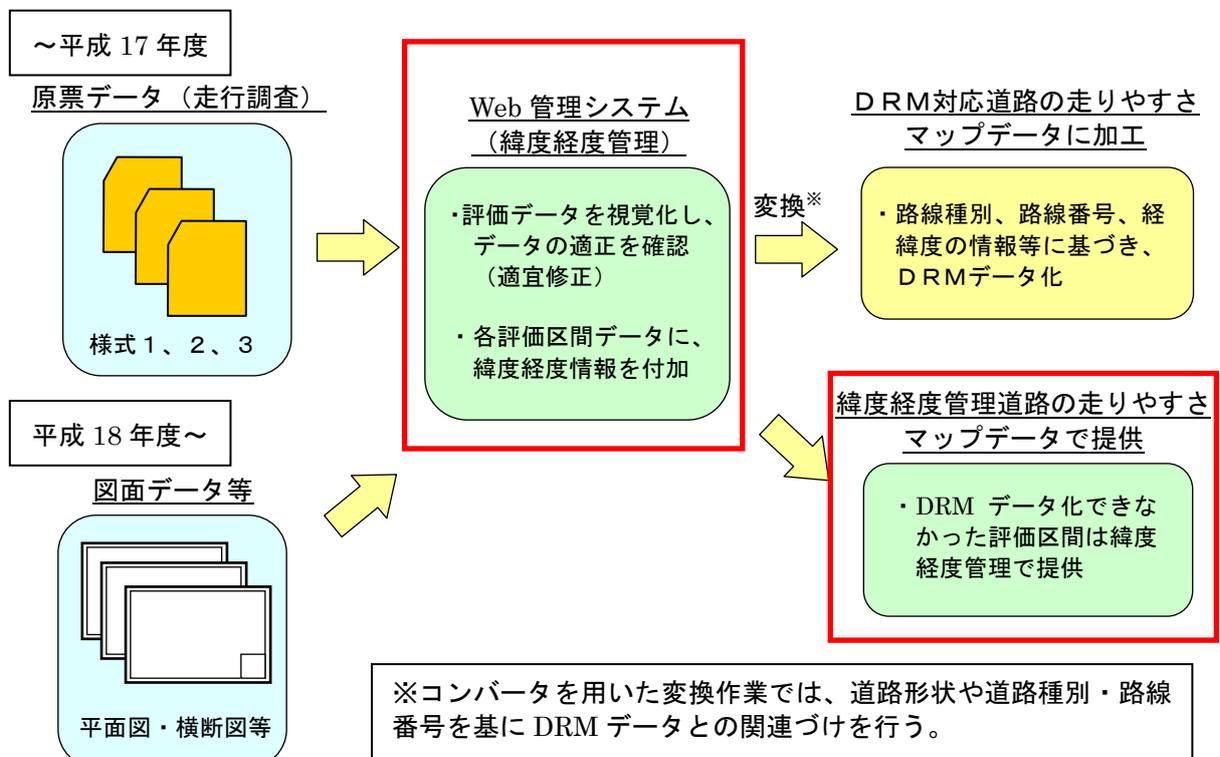


図 2-1 緯度経度管理道路の走りやすさマップデータ作成イメージ

2.3 データの取得範囲（対象路線）

高速道路や国道・都道府県道などに加え、観光客が利用すると便利と思われる大規模林道や広域農道、主要な市町村道についても情報を提供する。

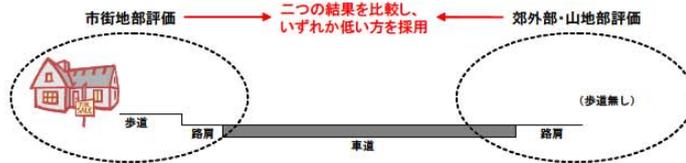
2.4 ランク算出方法

道路の走りやすさマップデータの評価ランクの算出方法は以下のとおり。

【市街地部道路の走りやすさ評価】

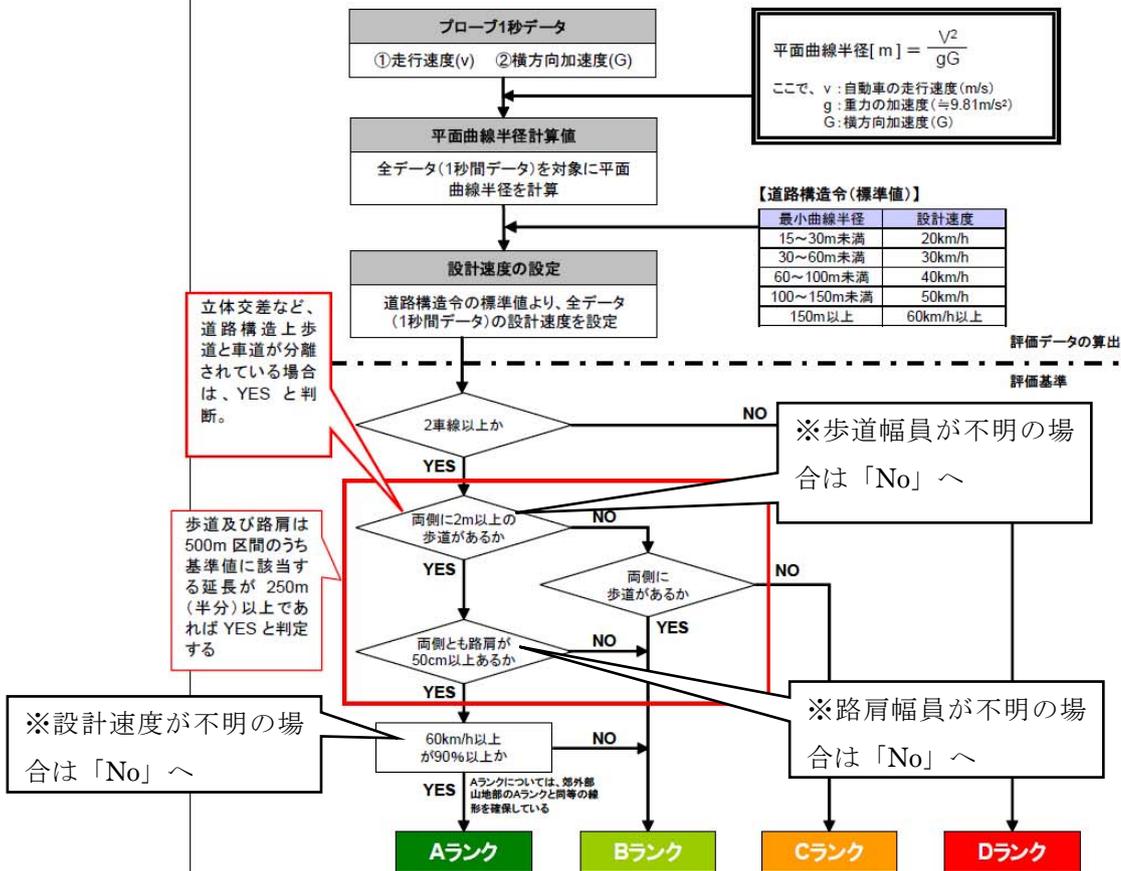
【「市街地部道路」の走りやすさ評価】

以下のフローに基づいて評価を行う。なお、「片側人家連担部」については、人家がある側は市街地部評価、人家がない側は郊外部・山地部評価を行い、いずれか低い方の評価結果を適用する。



■片側人家連担部の評価イメージ

■評価フロー図（市街地部）



※片側人家連担部の場合は「両側」を「人家がある側」に読み替えて判定を行う

※：平成20年度にデータ更新された路線については、図面からデータ作成を行ったため、不明のデータ項目については別途吹き出しに記載した処理を行う。

【郊外部・山地部道路の走りやすさ評価】

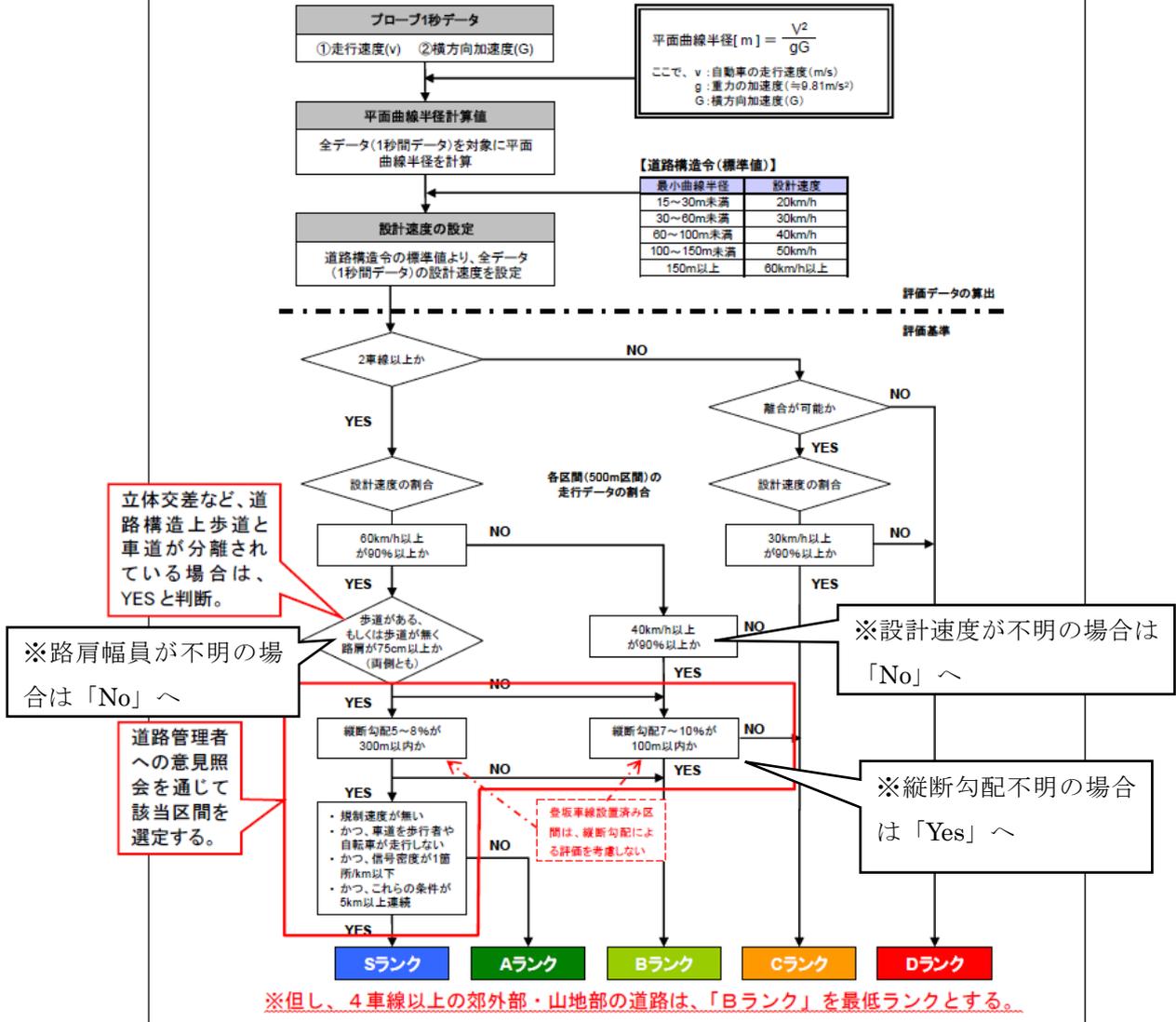
【自動車専用道路の走りやすさ評価】

自動車専用道路（第一種、第二種）の区間は、全てMランクとする。

【「郊外部・山地部道路」の走りやすさ評価】

プローブカーから得られた走行速度と横方向加速度の1秒間データ(手順①で整理した基礎データ)を用いて、平面曲線半径を計算し、全データについて道路構造令の標準値を用いて設計速度を設定し、各区間(500m程度の区間)の設計速度の割合に応じて、その区間の評価ランクを決定する。具体的な手法については、以下のフローの通り行う。

■評価フロー図(郊外部・山地部)



※：平成 20 年度にデータ更新された路線については、図面からデータ作成を行ったため、不明のデータ項目については別途吹き出しに記載した処理を行う。

【離合困難箇所および車線数の考え方】

離合困難箇所と車線数・評価ランクについて

離合(困難)とは…

- ✓ 離合とは、1車線道路において、すれ違うことを示す。
- ✓ このことから、離合困難箇所とは、1車線道路において幅員狭小及び線形不良などを理由に、車と車が容易にすれ違うことができない箇所を示す。



離合困難箇所および車線数の考え方

- ① 車線数の設定:
500mの評価区間のうちもっとも延長割合の高い車線数を採用
- ② 離合困難区間の設定:
500mの評価区間に少しでもあれば離合困難区間として設定

「車線数2かつ離合困難箇所あり」となるケース



車線数: 2 (2車線区間延長 > 1車線区間延長)
離合: 0 (離合困難箇所なし) or 1 (離合困難箇所あり)

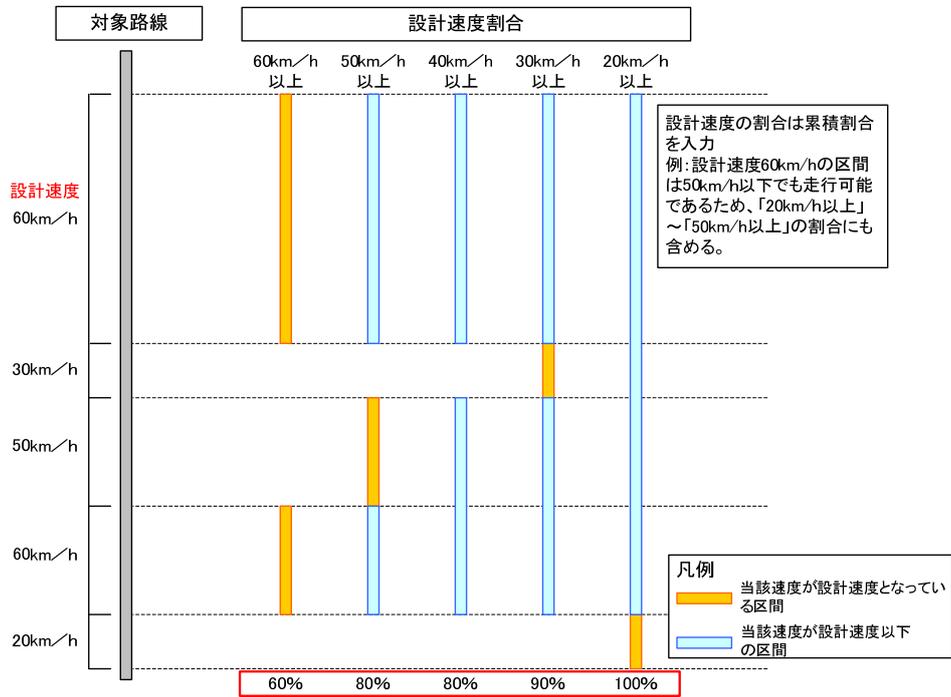
- ① 車線数の設定:
2車線区間割合が高い → 「車線数: 2」
- ② 離合困難区間の設定:
1車線区間の離合困難箇所の有無
→ 「離合: 0 or 1」

この場合
「車線数: 2」、「離合: 1」が発生する

※離合困難となる一車線道路は幅員が 3.5m 以下の道路を指す。

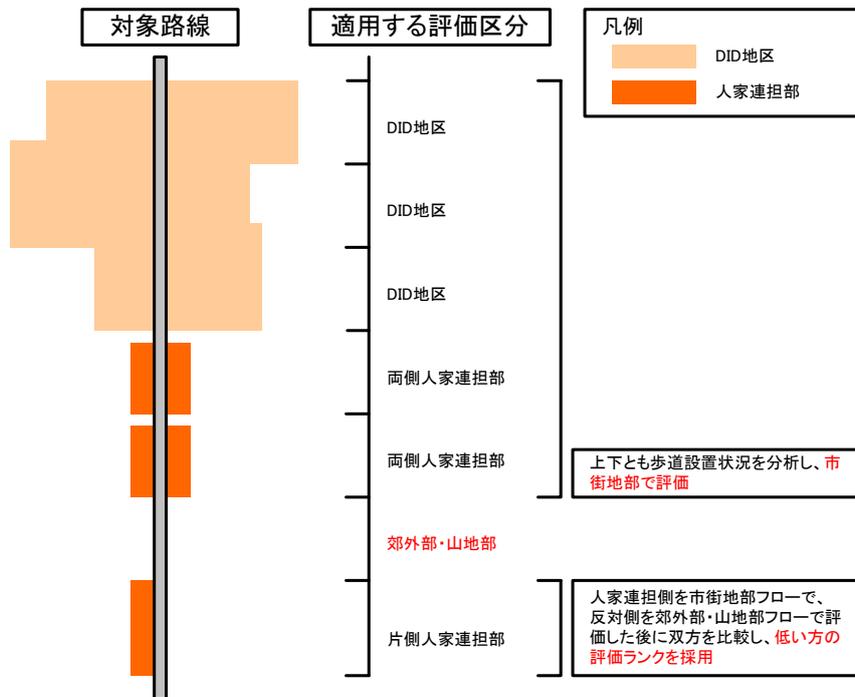
【設計速度割合の考え方】

設計速度が各値（20km/h から 60km/h まで）以上とされている道路が、評価区間に占める延長の累積割合を示したもの。



【評価区分の定義の考え方】

対象路線、D I D地区、人家連担部を整理した後、500m の区間ごとに適用する評価区分を以下のとおり決定（500m 区間のうち、延長割合の最も高い区分で決定）する。



第三章 整備基準

変更履歴

版	修正日	修正内容
1.0	2009/3/31	・データ提供に伴い、整備基準を見直し。

3.1 整備の基本的考え方

(1) 2条線の取り扱い

上下線分離道路（2条線）については、上下線とも同じ評価となることから、片側車線のみ走りやすさ評価を紐づけている。

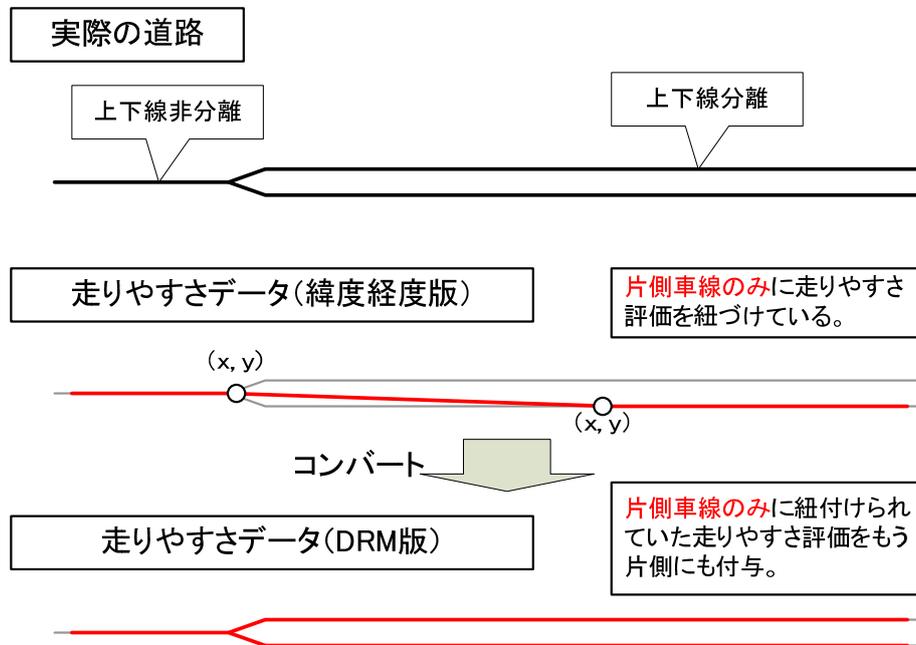
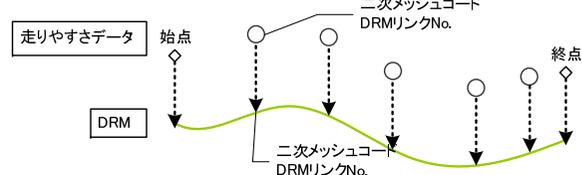
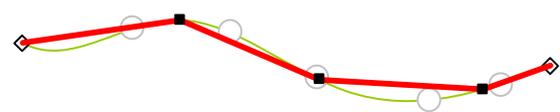
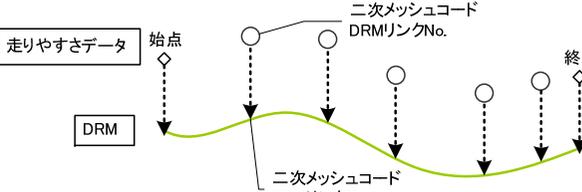
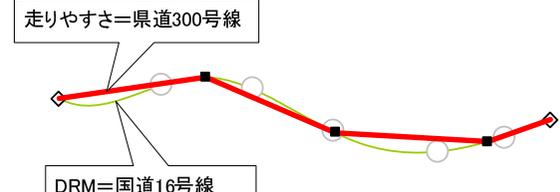
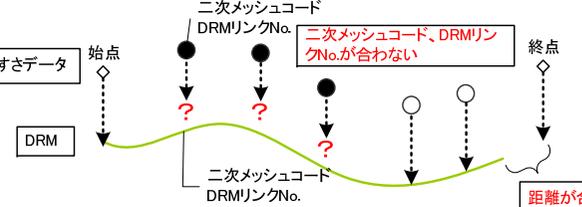
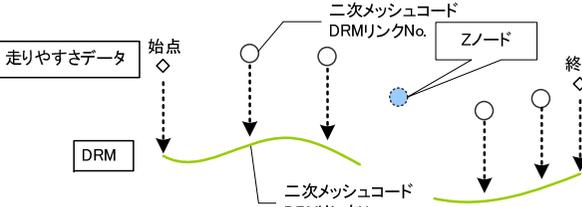


図 3-1 2条線の取り扱い

(2) データ整備の考え方

道路の走りやすさマップデータを走りやすさデータ管理 Web システムに登録する際に、緯度経度データに変換可能な路線の判断基準を以下に示す。

表 0-1 データ登録の判断基準

	評価路線の抽出 (距離、二次メッシュコード、DRM リンク No から評価路線を抽出)	評価属性の付与 (500m ピッチで路線を切断し、評価属性を付与)	登録の可否
通常(エラーなし)		 <p>・正常に全区間が登録される。</p>	○
道路種別 や路線番号の間違い	 <p>・距離、二次メッシュコード、DRM リンク No は正しいため、DRM との紐付けは可能。</p>	 <p>・路線としては登録されているが、間違った属性(道路種別や路線番号)はそのまま登録される。</p>	○ (対応する DRM データの道路種別と路線番号をデータに追加)
距離、二次メッシュ、DRM 番号の間違い	 <p>・距離、二次メッシュコード、DRM リンク No に間違いがある場合、DRM との紐付けができない。</p>	 <p>・DRM との紐付けができないため、路線ごと欠落してしまうため、可能な範囲で修正し、登録している。 ・なお、この修正は都道府県道以上を対象に行っている。</p>	○
Zノードを含む区間	 <p>・Zノードは DRM データに存在しないため、一部が欠落してしまう。</p>	<p>・Zノードを含む区間の登録は都道府県道以上を対象に行っている。 ・DRM1912 に存在しない道路は作成していない。</p>	○

第四章 検査仕様

変更履歴

版	修正日	修正内容
1.0	2009/3/31	・データ提供に伴い、検査実施内容を修正

4.1 データ登録の論理チェック

システムに登録されている道路の走りやすさマップデータは、以下の論理チェックを行う。

表 4-1 論理チェック項目 (■: 郊外部・山地部のチェック項目、■: 都市部のチェック項目、□: 共通のチェック項目)

データ分類	チェックコード	チェック内容	論理矛盾箇所数
全体	E2100	評価ランクの判定に必要な評価データが空欄となっている。	1,928
評価区分	E2441	【都市部(片側連担)】『評価区分が4(片側連担(上))または5(片側連担(下))』の場合、「都市部」と「郊外部・山地部」両方の論理チェックを実施し、両方も矛盾がある。	47
	E2442	【都市部(片側連担)】『都市部(片側連担)』と「郊外部・山地部」両方の論理チェックを実施し、どちらかのみ矛盾が無い場合に、「都市部(片側連担)」と「郊外部・山地部」の評価ランクを算出し、論理チェックがOKであった評価フローの結果がNGであった方の評価フローの結果以下』であればOK(低いもしくは同じ)、高い場合はNGとする。	38
評価結果	E2450	【郊外部・山地部】道路種別が『高速道路、都市高速』の場合に、MランクであればOK、それ以外はNG	34
	E2451	【郊外部・山地部】『2車線以上』の場合に、M、S、A、B、CランクであればOK、DランクであればNG	48
	E2453	【郊外部・山地部】『車線数が2車線未満 且つ 離合困難箇所が有り』の場合に、DランクであればOK、それ以外はNG	9
	E2455	【郊外部・山地部】『2車線未満 且つ 離合困難箇所が無し 且つ 設計速度30km/h以上の割合が90%未満』の場合にDランクであればOK、それ以外はNG	67
	E2456	【郊外部・山地部】『2車線未満 且つ 離合困難箇所が無し 且つ 設計速度30km/h以上の割合が90%以上』の場合にCランクであればOK、それ以外はNG	90
	E2457	【郊外部・山地部】『(2車線以上4車線未満) 且つ 設計速度40km/hの割合が90%未満』の場合にCランクになっていればOK、それ以外はNG	207
	E2459	【郊外部・山地部】『(A→Bランクダウン以外 且つ 2車線以上 且つ 設計速度60km/h以上が90%以上 且つ 両側に歩道がある) または、(A→Bランクダウン以外 且つ 2車線以上 且つ 設計速度60km/h以上が90%以上 且つ 両側とも路肩が75cm以上) または、(A→Bランクダウン以外 且つ 2車線以上 且つ 設計速度60km/h以上が90%以上 且つ 上りに歩道がない 且つ 下りに歩道がある 且つ 上りの路肩が75cm以上) または、(A→Bランクダウン以外 且つ 2車線以上 且つ 設計速度60km/h以上が90%以上 且つ 上りに歩道がある 且つ 下りに歩道がない 且つ 下りの路肩が75cm以上)』のときにSランク または AランクとなっていればOK、それ以外はNG。	808
	E2461	【郊外部・山地部】『(B→Cランクダウン以外 且つ 2車線以上 且つ 設計速度60km/h以上が90%未満 且つ 設計速度40km/hが90%以上) または、(B→Cランクダウン以外 且つ 2車線以上 且つ 設計速度60km/h以上が90%以上 且つ 下りに歩道がない 且つ 下りの路肩が75cm未満) または、(B→Cランクダウン以外 且つ 2車線以上 且つ 設計速度60km/h以上が90%以上 且つ 下りに歩道がない 且つ 下りの路肩が不明) または、(B→Cランクダウン以外 且つ 2車線以上 且つ 設計速度60km/h以上が90%以上 且つ 上りに歩道がない 且つ 上りの路肩が75cm未満) または、(B→Cランクダウン以外 且つ 2車線以上 且つ 設計速度60km/h以上が90%以上 且つ 上りに歩道がない 且つ 上りの路肩が不明)』のときにBランクとなっていればOK、それ以外はNG	1,174
	E2463	【郊外部・山地部】『4車線以上』の場合に、M、S、A、BランクであればOK、それ以外はNG	68
	E2452	【都市部】『2車線未満』の場合に、DランクであればOK、それ以外はNG	23
	E2454	【都市部】『2車線以上』の場合に、M、S、A、B、CランクであればOK、それ以外はNG	3
	E2458	【都市部】『2車線以上 且つ 両側ともに歩道が2m以上 且つ 少なくとも片側の路肩が50cm未満』の場合に、BランクであればOK、それ以外はNG	32
	E2460	【都市部】『2車線以上 且つ 両側ともに歩道が2m以上 且つ 両側ともに路肩が50cm以上 且つ 設計速度60km/h以上の割合が90%以上』の場合に、AランクであればOK、それ以外はNG	148
	E2462	【都市部】『2車線以上 且つ 両側ともに歩道が2m以上 且つ 両側ともに路肩が50cm以上 且つ 設計速度60km/h以上の割合が90%未満』の場合に、BランクであればOK、それ以外はNG	44
	E2464	【都市部】『2車線以上 且つ 片側の歩道が2m未満 且つ 両方とも歩道が有る』場合に、BランクであればOK、それ以外はNG	197
	E2465	【都市部】『道路種別が「高速道路、都市高速」以外 且つ 2車線以上 且つ 両側とも歩道が無い』場合に、CランクであればOK、それ以外はNG	87
	E2469	【都市部(片側連担)】『2車線以上 且つ 連担側の歩道が2m以上 且つ 連担側の路肩が50cm未満』場合に、BランクであればOK、それ以外はNG	4
	E2470	【都市部(片側連担)】『2車線以上 且つ 連担側の歩道が2m以上 且つ 連担側の路肩が50cm以上 且つ 設計速度60km/h以上の割合が90%以上』場合に、AランクであればOK、それ以外はNG	15
	E2471	【都市部(片側連担)】『2車線以上 且つ 連担側の歩道が2m以上 且つ 連担側の路肩が50cm以上 且つ 設計速度60km/h以上の割合が90%未満』場合に、BランクであればOK、それ以外はNG	6
	E2472	【都市部(片側連担)】『2車線以上 且つ 連担側の歩道が2m未満 且つ 連担側に歩道が有る』場合に、BランクであればOK、それ以外はNG	13
E2473	【都市部(片側連担)】『道路種別が「高速道路、都市高速」以外 且つ 2車線以上 且つ 連担側に歩道が無い』場合に、CランクであればOK、それ以外はNG	43	

凡例 □共通のチェック項目 ■郊外部・山地部のチェック項目 ■都市部のチェック項目 ■都市部(片側連担)のチェック項目
 ※ 本表の論理矛盾は、必ずしも評価結果の誤りであるとは限らないため、誤りであるかについては道路管理者等への確認の結果判断される。
 また、Mランク評価となっている評価区分については、評価フローに沿った論理チェック項目の対象外。

計 5,133

4.2 ウィルスチェック

提供する道路の走りやすさマップデータはウィルスチェックを実施する。

第五章 運用規定書

変更履歴

版	修正日	修正内容
1.0	2009/3/31	・データ提供に伴い、運用規定の内容を修正

5.1 提供データ

5.1.1 リリース時期

更新された道路の走りやすさマップデータは、毎年4月頃に提供する。

5.1.2 提供データの範囲

毎年提供する道路の走りやすさマップデータの範囲は以下のとおり。

- ①提供するデータは、前年データからの更新部分（差分）のみとする。
- ②提供するデータには、提供年度中および翌年度中に供用予定の道路が含まれる。
(例)N年4月に提供されるデータは、N+2年3月末までに供用される道路の更新データを含む。

5.2 データの取り扱い

5.2.1 著作権について

道路の走りやすさマップデータの著作権は、国土交通省国土技術政策総合研究所に帰属する。

5.2.2 総合評価ランクの使用

道路の走りやすさマップデータを使用する際は、走りやすさを表現するため、総合評価ランクを用いることを基本とする。

5.2.3 道路の走りやすさマップデータのアレンジランクについて

提供された道路の走りやすさマップデータについては、一部ランクの統合（6ランク→3ランクなど）、評価区間長の変更（500mピッチ→1kmピッチなど）、メーカー独自のデータを活用してランク区分の詳細化等、総合評価ランクをアレンジする場合は、国総研と協議すること。

5.2.4 ロゴの表示等について

道路の走りやすさマップデータを使用した際は、国土交通省で作成している道路の走りやすさマップデータを使用している旨の明示および画面上への図 5-1 に示すロゴの表示をすること。



図 5-1 道路の走りやすさマップロゴ

5.2.5 その他

その他、利用にあたっては国総研と協議すること。